小学校 × 理科

理科どこが変わる？

まず現行と次期をマーカーで比べ、そのあと現行の解説（公式PDF）を読めます。

変わる所 4項目　解説PDF 1件



10秒でいうと

分野をまたぐ課題を学ぶ「理科と日常生活」を新設。内容を物理・化学・生物・地学の4分野で整理

小学校の理科は、学習内容を物理・化学・生物・地学の4つの「分野」で整理する方向です。小・中・高で目標もそろえます。ただし、小学校の内容を難しくするものではないと、国が丁寧に周知する必要があるとされています。分野をまたぐ課題を学ぶ「理科と日常生活」を新しく設ける方向です。授業時間に「余白」を生むため、内容の精選も進めます。

どこが変わる？現行⇔次期（小学校）

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強調される言葉　~~赤の取り消し線~~＝現行から消える・変わる言葉

教科の目標（柱書）

現行

小学校は「問題を科学的に解決するために必要な資質・能力」、中・高は「科学的に探究するために必要な資質・能力」など、学校段階ごとに文言が少しずつ違う。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

基本の方向は変えずに、小・中・高で同じ文言に統一する方向（到達の目安は解説で学校段階ごとに説明）。

P185 ※現行の文言は資料編m3 P1（理①）

目標の「学びに向かう力」で育てたい心情

現行

「自然を愛する心情」などは小学校理科だけに書かれている。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

小・中・高共通で「**生命を尊重する心情**や**人と自然環境の調和に寄与しようとする心情**」と示す案。

P185

見方・考え方

現行

「（身近な）自然の事物・現象」を「科学的な視点」で捉え、比較したり関係付けたりする方法で考える（小は問題解決、中高は科学的に探究する方法）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「**自然や社会の事象・言説**」を「**自然科学的な視点**」から捉え、観察・実験の結果や科学的知見に基づいて客観的・論理的・批判的に考える、と小中高で統一する案。

P183 P185 ※新旧の文言は資料編m3 P2（理②）

探究の過程の用語

現行

学校種によって探究の過程の用語などが違う（小学校は「問題解決の過程」で「問題の設定」「予想や仮説の設定」など）。

→

次期（審議まとめの案・告示前）

「**科学的な探究**」の過程として小中高で**用語をそろえる**方向（例：「課題の設定」「仮説の設定」「検証計画の立案」「考察・結論」「表現・伝達」）。言い換えは妨げない。

P182 P183 ※用語の新旧は資料編m3 P10（理④-7）

現行の解説を読む（公式PDF）

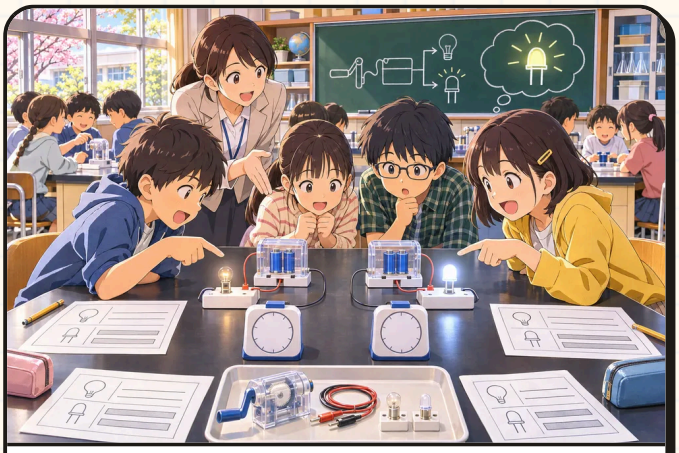
いまの小学校の理科の解説です（文部科学省のPDFが新しいタブで開きます）。

PDF **理科編**
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編

学習指導要領の本文

PDF **小学校学習指導要領（平成29年告示）**
全教科の目標・内容（この教科は第2章）

小学校の理科の指導案（試案）



小 理科 6年

電気をつくって、ためて、上手に使おう

本時のねらい 同じ量の電気で豆電球と発光ダイオードが光る時間を、条件をそろえて比べ、実験の結果を基に電気の利用について考えをまとめ、「LED電…

指導案を見る →

もっとくわしく

理科の変更点（くわしく） 新旧比較（全校種） 小学校の先生へ
資料室（小学校のほかの教科）

出典：中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）。P○ は本体PDFのページ、資料P○ は資料編のページ（クリックで該当ページが開きます）。